

整備（第5工区）の概要

1～3段目の石垣整備復元

確認できた本物の石垣に一部補石を加えて復元整備しました。

(補石は岐阜県各務原市・多治見市から調達した堆積岩(チャート)です)



崩落して失われた部分は野芝ロール工法で旧地形に近づける法面植栽整備をしました。

園路の一部では、発掘調査で確認された玉石敷と2か所の石柵遺構を再現しました。

これらは、石垣を守るための排水用の浸透柵と排水路の可能性があり、築城当時の高い土木技術をうかがわせるものです。

転落石は石垣が崩落した状況を保全するため、そのままの位置に残しています。

見どころ(1)

北西法面では、特に1段目の石垣の残存状況が良好だったため、整備後も築城当時の本物の石垣を一続きでご覧いただけます。★
そこでは、デザイン性に富んだ間詰石の配石や岩崎山から搬入された可能性のある花崗岩の石垣石材も確認できます。



① 2段目と3段目の間の曲輪面(城道)を園路とし、1・2段目の石垣を目前で観察することができます。(3段目は園路から見下ろして観察できます)



見どころ(2)

小牧山城の石垣は、野面(のづら)積という城郭石垣のなかでも最も古い段階の積み方です。今回の石垣復元にあたっては、在来工法(伝統的な石積み技術)を採用し、自然石の野面積で整備しました。

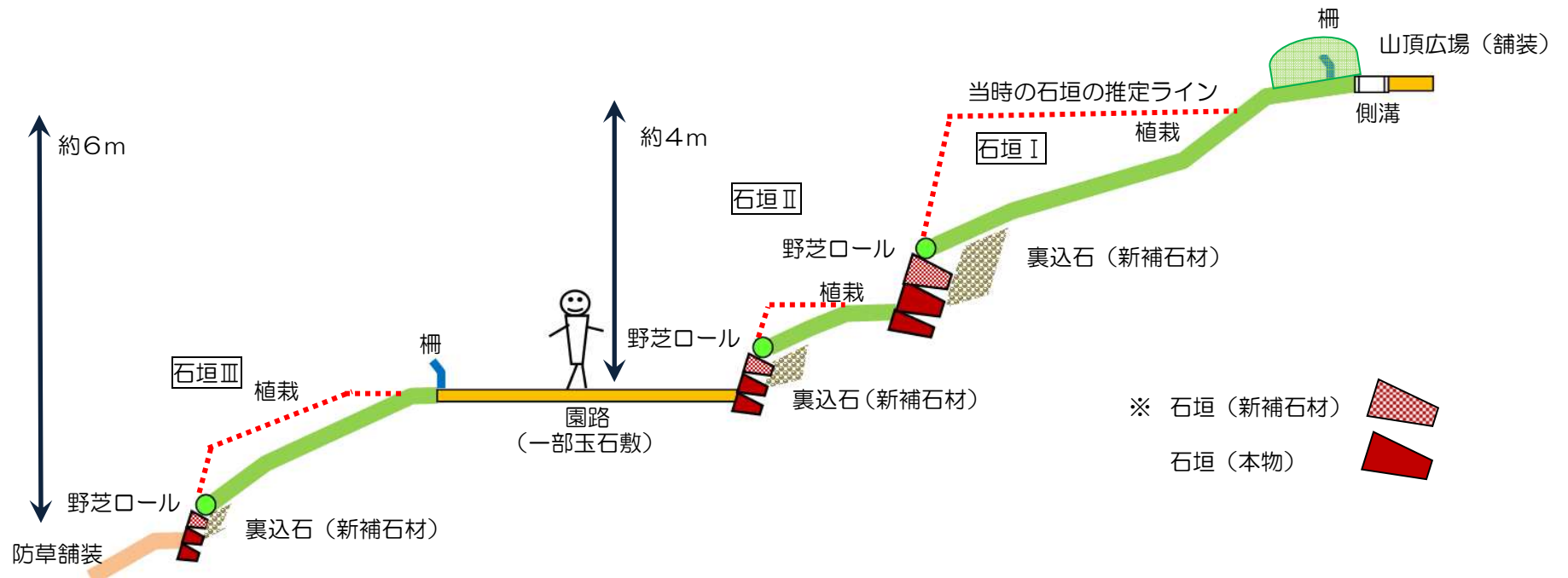


図3 第5工区 整備断面モデル図